香川高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	国語Ⅲ

科目基礎情報

科目番号	190003	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	建設環境工学科（2018年度以前入学者）	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	教科書：精選現代文B　東京書籍　三角洋一他編　ISBN　978-4-487-18707-2問題集：精選現代文B 課題ノート　東京書籍　東京書籍編集部 ISBN 978-4-487-36087-1教科書：新編古典B　教育出版　影山輝國他編　ISBN　978-4-316-20249-5漢　字：級別漢字学習4級～2級　東京法令出版　赤羽靖他ISBN 978-4-8090-7508-7表　現：改訂版基礎からの国語表現の実践 京都書房　樺島忠夫・佐竹秀雄共著ISBN 978-4-7637-4103-5図　説：新総合図説国語〈新訂版〉東京書籍　池内輝雄他ISBN 978-4-487-36125-0辞　書：電子辞書等（国語辞典　古語辞典　漢和辞典）		
担当教員	坂本 具償,長谷川 隆		

到達目標

1. 現代文や古文の読解を通して，他人の物の見方や考え方を知る。
2. 正しい日本語で表現するための基礎を身につける。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	現代文や古典の読解を通して、他人の物の見方や考え方を知り、独自の物の見方や考え方に活かすことができる。	現代文や古典の読解を通して、他人の物の見方や考え方を知り、まとめることができる。	現代文や古典の読解が十分にできず、記述されていることをまとめることができない。
評価項目2	正しい日本語で表現するための基礎的事項を理解し、実際のコミュニケーションの場で応用することができる。	正しい日本語で表現するための基礎的事項を理解することができる。	正しい日本語で表現するための基礎的事項を理解することができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	講義形式を基本とする。
授業の進め方・方法	講義形式を基本とするが、予習・復習に努めてほしい。意見を書いたり発表したりしてもらうこともある。原則として，年間２０回漢字小テストを実施する。また，適宜，読書時間も設ける。
注意点	特になし。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	0 全体ガイダンス １．現代文　評論 (1) ミロのヴィーナス（清岡卓行）	論理的文章を読み，論理構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し，要約し，意見を表すことができる。
		2週	１．現代文　評論 (1) ミロのヴィーナス（清岡卓行）	論理的文章を読み，論理構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し，要約し，意見を表すことができる。
		3週	１．現代文　評論 (2) 日本人の美意識（高階秀爾）	論理的文章を読み，論理構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し，要約し，意見を表すことができる。
		4週	１．現代文　評論 (2) 日本人の美意識（高階秀爾）	論理的文章を読み，論理構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し，要約し，意見を表すことができる。
		5週	１．現代文　評論 (2) 日本人の美意識（高階秀爾）	論理的文章を読み，論理構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し，要約し，意見を表すことができる。
		6週	１．現代文　評論 (2) 日本人の美意識（高階秀爾）	論理的文章を読み，論理構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し，要約し，意見を表すことができる。
		7週	１．現代文　評論 (2) 日本人の美意識（高階秀爾）	論理的文章を読み，論理構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し，要約し，意見を表すことができる。
		8週	前期中間試験	
	2ndQ	9週	試験返却と解説 2．コミュニケーション (1)．国語表現の実践 ア．段落	正しい日本語で表現するための基礎的事項を習得できる。論理構成や表現方法を工夫して，自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。
		10週	2．コミュニケーション (1)．国語表現の実践 イ．論旨	正しい日本語で表現するための基礎的事項を習得できる。論理構成や表現方法を工夫して，自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。
		11週	2．コミュニケーション (1)．国語表現の実践 ウ．材料	正しい日本語で表現するための基礎的事項を習得できる。論理構成や表現方法を工夫して，自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。
		12週	2．コミュニケーション (1)．国語表現の実践 エ．構想表	正しい日本語で表現するための基礎的事項を習得できる。論理構成や表現方法を工夫して，自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。
		13週	2．コミュニケーション (1)．国語表現の実践 オ．課題作文	正しい日本語で表現するための基礎的事項を習得できる。論理構成や表現方法を工夫して，自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。
		14週	2．コミュニケーション (1)．国語表現の実践 カ．手紙文・メール	正しい日本語で表現するための基礎的事項を習得できる。実用的文章を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。

		15週	2．コミュニケーション (1)．国語表現の実践 　　カ．手紙文・メール	正しい日本語で表現するための基礎的事項を習得できる。実用的文章を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。
		16週	前期末試験	
後期	3rdQ	1週	試験返却と解説 3．現代文　評論・小説 (1)鏡の中の現代社会（見田宗介）	論理的文章を読み，論理構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し，要約し，意見を表すことができる。
		2週	3．現代文　評論・小説 (1)鏡の中の現代社会（見田宗介）	論理的文章を読み，論理構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し，要約し，意見を表すことができる。
		3週	3．現代文　評論・小説 (1)鏡の中の現代社会（見田宗介）	論理的文章を読み，論理構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し，要約し，意見を表すことができる。
		4週	3．現代文　評論・小説 (2)俘虜記（大岡昇平）	文学的文章を読み、限界状況に置かれた人物やものの見方を理解し味わい，人間に対する考えを深め，意見を表すことができる。
		5週	3．現代文　評論・小説 (2)俘虜記（大岡昇平）	文学的文章を読み、限界状況に置かれた人物やものの見方を理解し味わい，人間に対する考えを深め，意見を表すことができる。
		6週	3．現代文　評論・小説 (2)俘虜記（大岡昇平）	文学的文章を読み、限界状況に置かれた人物やものの見方を理解し味わい，人間に対する考えを深め，意見を表すことができる。
		7週	3．現代文　評論・小説 (2)俘虜記（大岡昇平）	文学的文章を読み、限界状況に置かれた人物やものの見方を理解し味わい，人間に対する考えを深め，意見を表すことができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	試験返却と解説 4．古文　随筆 (1) 徒然草概説 (2)丹波に出雲といふ所あり	基本的古語を理解し，徒然草の内容を理解できる。徒然草の文学史における位置を理解し，その意義について意見を述べることができる。
		10週	4．古文　随筆 (2)丹波に出雲といふ所あり	基本的古語を理解し，徒然草の内容を理解できる。徒然草の文学史における位置を理解し，その意義について意見を述べることができる。
		11週	4．古文　随筆 (3)能をつかんとする人	基本的古語を理解し，徒然草の内容を理解できる。徒然草の文学史における位置を理解し，その意義について意見を述べることができる。
		12週	4．古文　随筆 (3)能をつかんとする人	基本的古語を理解し，徒然草の内容を理解できる。徒然草の文学史における位置を理解し，その意義について意見を述べることができる。
		13週	4．古文　随筆 (4)神無月の頃	基本的古語を理解し，徒然草の内容を理解できる。徒然草の文学史における位置を理解し，その意義について意見を述べることができる。
		14週	4．古文　随筆 (5)方丈記概説 (6)行く川の流れ	基本的古語を理解し，方丈記の内容を理解できる。方丈記の文学史における位置を理解し，その意義について意見を述べることができる。
		15週	4．古文　随筆 (6)行く川の流れ	基本的古語を理解し，方丈記の内容を理解できる。方丈記の文学史における位置を理解し，その意義について意見を述べることができる。
		16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	

評価割合

	試験	提出物	漢字小テスト	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	５０	１５	１０	0	0	0	0
専門的能力	２５	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0